

V219b チベットロボット三色撮像カメラ (HinOTORI) : 輸送と建設

内海 洋輔, 吉田 道利, 川端 弘治 (広島大学宇宙科学センター), 川野元 聡, 成相 恭二, 佐々木 敏由紀, 柳澤 顕史 (国立天文台), 姚 永強, Wang Hongshuai (中国国家天文台), 劉 彩品 (中国紫金山天文台), 谷津 陽一, 齊藤 嘉彦 (東京工業大学)

重力波源の正体を探るために可視光対応天体の全地球的な可視光フォローアップ観測網構築が望まれている。我々は極東地域での観測ネットワーク強化をめざし、日本から経度 60 度離れた中国西部チベット阿里地区に 50cm 望遠鏡と SDSS u, Cousins-Rc, Ic バンドを有する三色同時撮像カメラを設置する HinOTORI (Hiroshima University Operated Tibet Optical Robotic Imager) プロジェクトを推進している。

これまでに望遠鏡・装置・カメラ・赤道儀の各コンポーネントは東広島天文台にて性能試験を実施し、その結果を発表してきた (2015 年春季年会 V229b)。2015 年 10 月に東広島天文台から出荷し、木箱梱包作業を行い、輸送業者の倉庫にて保管し、中国側輸入手続き完了に備えた。2015 年 12 月に中国側税関での輸入手続きが完了し、2016 年 2 月に広島港よりコンテナ船によって物資を収納したコンテナを出荷した。青島港で荷物を積み下ろし、トラックによる陸送で拉薩を経由して最終的に 2016 年 4 月に物資が中国国家天文台阿里観測所に到着した。受け入れ時の初期検査では目立ったダメージは認められず、物資の輸送は完了した。現在は現地における建設作業を目指し準備行っている。本稿では最新の HinOTORI プロジェクトの進捗について報告する。